

議長・副議長就任記者会見(R 3. 6. 29)

(三橋議長就任)

83代議長に就任いたしました三橋であります。

自分自身、青森県議会基本条例を作る中でこの議長記者会見というものを是非取り入れて欲しいということを提案した一人であります。

青森県議会基本条例の趣旨に則って始まったこの会見で、自分自身がその発言をする場に立ったということ、大変感慨深く思っております。

思えば、自分の議会人生の中で青森県中小企業振興基本条例、青森県稲わらの有効利用の促進及び焼却防止に関する条例、そして青森県議会基本条例、オブザーバーとして青森県がん対策推進条例といった議員提案の政策条例に関わってきた者として、政策でしっかり物事を動かす議会、そしてまた、政策だけでは動かない言葉のやり取りや心のやり取りというものでしっかりと議会をこれから動かしていきたいと思っております。

そしてまた、自分自身、生まれた土地から約2キロのところに亀ヶ岡石器時代遺跡が、遮光器土偶の出土した場所があります。ですから、

議員になって18年余りの間、毎日、最低、行きと帰りで「亀ヶ岡」

「田小屋野」両遺跡を1万3千回以上視察してきたわけであります。

それが高じて北海道・北東北、17の遺跡全てを3度ずつ回って、亀ヶ岡、田小屋野は1万3千回以上回って、北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産正式登録の時に自分自身が議長という立場で立ち会えるというのは、何か運命だというふうに感じております。

是非、これからも様々な形で情報発信、そしてまたいろいろなニュースとして県民に発信していただくためには、マスコミの皆様のお力というものが大変重要になってくると思います。

日頃から様々な形で議論を積み重ねていながら、皆様の声を、県民の皆様の手をしっかりと聴いて参りますので、何卒、今後ともよろしくお願いいたします。

(質問)

○記者

議長は、議会改革検討委員会をお務めになっていましたが、その中には、去年の国勢調査に基づく検討もあったと思いますが。

議長任期中に何か行う考えはありますか。

○三橋議長

今まで自分が委員長として議会改革検討委員会の中で様々議論してきたこと。そして、また、議長になった以上は、委員会には所属できなくなりますので、その引き継いでいく部分の中で、状況が幾つか変わっています。

当然、人口が減っている。各選挙区ごとの格差も生じてきている。速報値が実際出ればそうなると思いますけれども、同時にこのコロナ禍で、議員の役割とはどういうものか。減らせばいい、議員報酬を削減すればいいというのだったら、それは幾らでもやり様はありますけれども、私たちは、県政をチェックし、提言をする立場にあります。

ですから、私たちが幾ら減ろうが、県政のチェック機能が緩んでしまえば、それは何の意味もないことでもあります。このコロナ禍にあつて、議員の役割がどういうものなのかをしっかりと議長という立場で見極めていきたいと思っています。

そしてまた、議会改革検討委員会の中で議論されるべきことは、そちらでしっかりと話し合われていただければと思います。

あまり時間にこだわることなく、このコロナが収まってくれないことには、この議論は進まない、進めることが大変難しい課題だと思っ

ていますので、一日も早くワクチン接種、希望する人へのワクチン接種が終了して、平穏な日常が戻ってくれば、その時には、しっかりと議論をしていく状況になれるのかなと思っています。

○記者

前任の森内議長は、そのコロナの中、様々なコロナ対策を行いましたけれども、就任後、何かやるべきことなどありましたら教えてください。

○三橋議長

9月定例会には、まず、議員とそれから執行部側がどの程度ワクチンを接種しているかというのを把握し、その中で実際、集団免疫がついて大丈夫な状況になれば、勿論のことながら、一般質問等は、やっぱり議員の華でありますので、皆に聞いていただきたい。

今、半数だけが議場に入る状態でありますけれども、予算特別委員会等で使っている西棟8階大会議室が改修されますので、そちらで残り半分の方に聞いていただくなど、これは、事務局としっかり相談しながら検討していきたいと思っています。

できることなら一日も早く全議員が議場で、そして執行部も全員入ってもらって、その発言を聞いてもらう。そしてまた、その発言内容がしっかりとコロナ禍を乗り越えるような質問になるように、議長としては期待しております。

○記者

先ほど、議会改革の中で時間にこだわることなく、コロナが収束してからというお話だったんですけども。

区割りの話になると、次期選挙というのが一定の目途、それまでに何か示した方がいいというお考えでしょうか。

○三橋議長

コロナが、どの時点で収束するかということをお大前提に考えないといけませんので、私も就任直後の段階ですので、当然のことながら、各会派の意見をしっかりと聴いた上で、今まで議会改革検討委員会の中で議論してきたことも踏まえながらも新しい委員長の下でそういった内容についてもしっかりと議論していただいて、それから必要であればスピード感を持ってやる。今、一度、立ち止まらなければいけない

のであれば、そこはしっかりと立ち止まって、今、コロナ禍を乗り越えるための役割をしっかりとしていくというようなことをしていきたいと思えます。

○記者

このコロナ禍で、改めて執行部側に議会として、どういう行政を求めたいでしょうか。

○三橋議長

これは、自分自身、議長になる以前から、どういうことをやれば、県に対しての提言が届くかということは、議員個人としても考えてきましたが、やはり議会全体としての意思統一を図って発言していくことは、県に対して大変強い提言になると思っています。議員個人の想いを言うのではなく、例えば、委員会であるとか、会派であるとか、いろいろな形の提言の仕方があると思います。さらに議会基本条例を制定する中でしっかり検討を重ねてきた議員間討議というようなやり方もあります。

その中で最大限の効力を発揮するような形の提言をしていけるよう

に、しっかり意見を聴きながら、このほかのやり方を含めて、議会の提言を全て伝えるにはどうしたらいいのか、そのことを考えていきたいと思っています。

○記者

他の会派から今回の議長の交代について、議長のたらい回しではないかという指摘もありますが、どういう御見解をお持ちでしょうか。

○三橋議長

いろいろな考え方が勿論あると思いますが、あくまで森内議長の一身上の都合ということ、その後、是非、後任にということですので重く受け止めております。議長は、地方自治法上4年の任期ということにはなるのですが、大変な重責でもあり、それぞれの個人の判断によるところもあったかと思しますので、そこは、あくまで森内議長の判断ということだと思います。

他の会派の方々にそういった発言をされる方がいるのは、当然のことだと思います。

ただ、自分自身としては、与えられた役割をしっかりと果たすために、

この職責に恥じないような行動、そしてまた、森内議長がやってきたこと以上に自分自身努力をしていかなければいけないというふうに思っています。

○記者

座右の銘、趣味、現在、一緒に暮らしている家族の構成を教えてください。

○三橋議長

座右の銘と言われて、いろいろな先人の言葉で、大変重みのある好きな言葉はたくさんあるのですけれども、これは座右の銘というか、キャッチフレーズに近いものですが「新鮮に真剣に」という言葉を自分自身使っております。

議会の中で様々な発言を聴くと、ある程度、過去にも聞いたことがあるな、というような言葉が数多くあります。住民からの相談、地域からの要望もそういうことが多くありますが、相談する側にとっては初めてのことで、新鮮なことであります。

ですから、それを「ああ、前にも聞いたな」ではなく、本当に初め

での出会いであり、初めての言葉であると真剣に受け止めて、そして自分の今までの経験をしっかりと生かして、今まで1年かかったものを次は半年で成し遂げる、3か月で成し遂げるというふうにやっていたかなければいけないと思っていますので、その「新鮮に真剣に」という意識で、自分自身議員活動に取り組んでいるところであります。

それから、趣味は、幾つかありますけれども、1つは自分でコーヒーを淹れること、2つ目はスポーツ観戦、それから3つ目は縄文遺跡群巡りです。

朝、自分自身で豆を挽いて、その日の気分に合わせてコーヒーを淹れて、その香りを楽しみながら頭の中をしっかりと整理して議会へ臨むというのが1つのルーティーン。趣味でもあり、自分自身をしっかりと整えるものでもあるので、様々な豆を飲んでいきますので、これから先、皆様も議長室に遊びに来ていただければ美味しいコーヒーを自分で淹れられればとは思っています。

スポーツ観戦は、基本的には野球やサッカーですが、今、どこかの放送局に呼ばれても十分解説ができるだけの自負があり、巨人戦ほか、自分のひいきのチームであれば、いろいろな解説ができるまでに高めていこうと思っています。

家族と一緒に観ていると「ちょっとうるさい」と言われるのですが、コロナ前には実際に東京ドームや、他のスタジアムでも観戦しましたが、是非、スタジアムで皆で観戦できるような状況になれば、またスポーツ観戦も楽しんでいきたいと思っています。

もう1つの縄文遺跡群を巡るというのは、自分自身の視察として3度全部を回っていますけれども、いろいろなところを何度も訪れると、それぞれに特徴的なことがあり、北海道の大船遺跡を回った時には、野良馬に会ったというような貴重な経験があります。足を運んでみると分からないことがあるとことを視察を通じて常に感じているので、これからもそういった遺跡巡りをしながら、我々4年に1回戦っている身としては、縄文時代では、一万年もの間、戦争がなかったというのは、どういうところに理由があるのだろうという想像をしながら、そしてまた、最近では土偶の諸説に関する話題の本等もありますので、そういった書籍を見ながら遠い先人に想いを巡らせるというようなこともまた趣味でしょうかね。

家族構成ですけれども、この名前を付けてくれた父はもう故人となりましたが、母と妻、それから長男が今、大学を卒業して3年目、家に帰ってきています。長女は、中学校3年生、反抗期真っ盛りです。

あと次男が弘前の大学にいてアパート暮らしという家族構成です。

○記者

政治家を志したきっかけを教えてください。

○三橋議長

高校までは医者になろうと思っていました。医者になろうと思っていましたが、普通に受験して、大学は弘前大学理学部の生物科に入りました。世の中、いろいろな難しい問題がある中で、それに腹を立てて文句だけ言う人間ではなく、自分自身を変えていこうという想いで政治家を志しました。

幸いなことに高校、大学と演劇をやっておりましたので、人前で話をするのは、それほど苦ではありませんでした。自分の言葉をどうやったら相手に伝えることができるかというのは、政治の世界にも通じる場所があると思います。

その中で世の中を良くするため、自分自身、多くの人の声を聴いて汗を流していくという想いで政治を志しました。

○記者

カラオケビデオにも出演の経験があると聞きましたが。

○三橋議長

大学時代にそういうアルバイトの経験があり、一度他県に就職した後、戻って来た時に声を掛けられて出演しました。このコロナ下では、カラオケはもちろん踊り付きで歌うなんていうことはできないので、そういう状況を早く打破するためにも、しっかりと県政の中で乗り越えて、いつかそういう歌って踊れる県議会議員として、これからは県議会議長としてですが、自分自身の持っているキャラクターが出せるようになる。早くそういう状況を作るのが我々の役目だと思っています。その時には、是非、県民の皆様にも聞いていただければと思っています。

○記者

ちなみに十八番はなんですか？

○三橋議長

近藤真彦さんの「ギンギラギンにさりげなく」、まるで私の生き方のようです。

○記者

それは、やっぱり踊り付きでしょうか。

○三橋議長

ここではやりません。

○記者

ダンスが得意だというふうに書いていたのですがいかがでしょうか。

○三橋議長

特技というわけではないですけども、言葉もそうだし、体の動きというのは、やっぱり表現なので、その表現する中の1つにダンスというのものもあるのかなと思います。今、教育にもダンスが取り入れられ

ています。

○記者

ダンスの分野をお聞きします。

○三橋議長

ヒップホップではなくて、基本、ジャニーズ系の踊りです。

○記者

身長は、何センチですか。

○三橋議長

身長は、179.5センチなので、公称は180センチにしています。四捨五入して。体重は秘密です。

ただ、体重維持のためには、毎日ちゃんと体幹トレーニングであるとか、宅トレとか、そういったもので体を鍛えています。

○記者

出身は、つがる市、旧木造町でよろしいですか。

○三橋議長

そのとおりです。

○記者

西津軽郡からの議長は久々になるのでしょうか。

○三橋議長

津軽地域、旧木造町からでいえば、石田清治先生、秋田柁則先生に続いてということで、その当時の西津軽郡選挙区であれば富田重次郎先生以来ということになると思います。

○記者

何年ぶりというのは、お分かりになりますか。

○三橋議長

これは、議会事務局じゃないと分からない。そこまで調べていたら、あらかじめ決まっているみたいな話になりますが。

今日決まった話ですので、後で調べておきます。

今後とも、いろいろと皆さんに情報提供しながら、皆さんからも御意見を聴きたいと思っていますので、よろしくお願いします。

ありがとうございました。

(蛭沢副議長就任挨拶)

○蛭沢副議長

先ほど、議場におきまして、議員各位のご推挙をいただき、第81代副議長に就任いたしました蛭沢正勝でございます。誠に身に余る光栄と感激しているとともに、責任の重さを痛感しています。

本県におきましては、人口減少、新型コロナウイルス感染症対策等、重要かつ喫緊の課題が山積する中、県議会には、県政における最高議決機関として積極的な議論を経て、民意を集約する役割が求められています。

私は、青森県議会の歴史と伝統を尊重しつつ、微力ではございますが議長を補佐し、公正かつ公平で県民の方々に分かりやすい議会運営に努めて参りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

(質問)

○記者

議員生活を振り返って、特に力を入れてきたことですか、印象深いこと等があればお願いします。

○蛭沢副議長

私は10年前に県議会に当選させていただきました。その4年前に1回目の出馬で失敗し、そのような経験の中で、自分の地域の代表ということで、やはり地域密着でいろいろな要望に対して応えなければなりません。

特に最初、三橋議長が委員長の農林の常任委員会に配属になりました。その時に青森県の特A米、売り出すべき米の新開発が遅れているのではないかと、農林の常任委員会に取り上げ、議長の高樋憲さんから、「蛭沢、それやるんだったら頑張れ」と言われました。その当時、山形県では、つや姫がデビューして、種もみは、絶対に県外に流出ないよう物凄く厳しい管理をしておりました。

そのような流れで青森県も青天の霹靂が開発されました。どこでも農家の方々は自分たちも良いものを作りたいという声はあります。種もみを何とか手に入れてほしいと言われますが、やはり、絶対許されないのです、現在も管理されて、また今年も新しい品種が発表されると。まだネーミングが決まらないということです。そういう特A米に対して、その当時から主食用米は余剰傾向ですから、飼料用米にも力を入れなければならないということもあり、特に米に対する想いを受け止

めること、それが議員になって一番最初に取り組んだことです。

○記者

この新型コロナウイルスという環境下にあって、コロナ対策の中でも何を重視して、県に取り組んで欲しいことはありますか。

○蛭沢副議長

コロナ対策という部分では、森林組合の組合長をしておりますが、結構な職員数で、青森県内では勿論、全国的にもそれなりに力のある森林組合なものですから、働いている人の健康を自分でどうしたら守れるか、特に自分のことは自分で守ること、これが基本だと私は思っています。

特に私がよく言うのは、自分は命に執着すること。だから、検診を受けること、これは自分の体は、健康は、自分で守らなければならないこと。そういう意味で、先般脳ドックも受けましたし、ワクチンももう2回打ちました。

これでも満足することなく、2、3年に1回、PET・CT検査で仙台まで行っております。

これまで青森県のがん対策に関するいろいろな話をしてきました。多分、皆さん方も、1回、検診を受けて、異常があることを指摘されれば、「はい、分かりました」と1回ぐらいは受診に行くと思います。

しかし、もう1回要精検と出ても、また別の機会に出ても、「なーに、いつも私は大丈夫だ」と過信して行かない方がいつか恐ろしい目に遭ってしまう、分かった時点では手遅れという状態で、私の友達でも亡くなった方がおります。

そういうことですので、コロナ対策について、青森県もワクチンに関して、県独自の対策を発信してくれれば、さらに三村知事の評価が高まるのではないかと考えております。

○記者

議長と蛭沢議長は、20歳ぐらい年齢が離れておられますが。先ほど、議長を補佐してというお話もありました。副議長としての役割について、掘り下げてお話いただきたいと思います。

○蛭沢副議長

年齢の差は、私は一切、気にはしておりません。

私が議員になる以前は、政治の表舞台には立っておりません。あくまでも、自分が議員になった時に三橋議長は3期目で。私は、漸く10年経ちましたが、その政治キャリアは違います。ただし、社会の中では、私は70歳ですから、いろいろな役職を経験しております。商工会、森林組合、スポーツ界において、現在も役職ポストに就いておりますが。

あくまでも、私は、縁の下の力持ちに徹し、出しゃばらず、控えめにしていきたいと思います。例えば、我が東北町の議長は48歳で議長に就任しました。その方は、先の選挙でも私の後援会長を務めてくれましたが、丁度、三橋議長とタイプが似て、背も大きく、歳も若い。しかし、キャリアがあり、能力がある方であれば、私は、出しゃばらず、後ろを付いて、何かの時には汗流す、このように補佐していく形が副議長の立場だと思っております。

○記者

性格をどのように分析されていますか。

○蛭沢副議長

私の性格は、皆さん方が、見たとおりではないかと思っております。

割と思ったことは言いますが、今は極力、出しゃばらず、控えめにしています。けれども、泥を被ってもやるような時は、選挙中でも知事に直接発言を求めるなど、おだてられてではなく、皆の期待を裏切らないようにやる性格だと思います。

○記者

縁の下の力持ちとして頑張られるタイプですか。

○蛭沢副議長

私はこれまで、商工会連合会の副会長。青森県森林組合連合会副会長。体育協会も副会長を務めました。副にとどまる必要があるなどいろいろな事情がありましたが、県議会議員になってからも、委員長は2回で、大半は副委員長です。このように、副に慣れてはいると思っております。

○記者

サポートがお得意でいらっしゃいますか。

○蛭沢副議長

議員になる前、いろいろな方のサポートをしてきておりますから、サポート慣れはしているのではないのでしょうか。

○記者

これまでのお話を総合すると、縁の下の力持ちに徹するけれども、社会的には、三橋議長よりも、森林組合など、いろいろなキャリアを持っているから、そのキャリアを活かして助ける、議長を助けるというようなお考えでしょうか。

○蛭沢副議長

そういうおこがましいようなことは考えていません。ただし、私の出番の時に、やはり議長を補佐することは当然のことだと思っております。

○記者

どのような議会運営を目指したいというのはございますか。

○蛭沢副議長

議会運営は、議長のスタンスについていかなければならないと思っております。

○記者

執行部側へのスタンスを教えてください。

○蛭沢副議長

一般的には、甘い言葉は言えないのですが、いろいろな分野で大変地域の要望を聴いており、お日様タイプで、何とか我が地域をお願いしますというように行動しておりますので、ウィン・ウィンでやっていきたいと思っております。

○記者

他会派との調整役、根回しの役割についてはいかがですか。

○蛭沢副議長

そういう分野には、私が出ない方がいいのではないかと思います。それでも、個人的にお付き合いのある方々が結構多いですから、その時々によると思います。

○記者

大事にしている言葉、あるいは信念、あと、家族構成についても教えてください。

○蛭沢副議長

家族構成は92歳の母親、妻とまだ独身の長男が同居しています。

それから、座右の銘は「誠実 融和 努力」

昔から政治では、誠の心でもって種を植え育てる。そして一生懸命育てる工夫、手を加える。その結果、花も咲き、実もなると思います。

これは、仕事も同じで、一生懸命、いろいろな営業活動をして、いろいろな方と和を持ってお付き合いしていくことによって、必ず実がなる、その心を忘れずに頑張るように言ってきました。そういう意味では、「誠実 融和 努力」というのは、常に頭に入れて現在も県議会

議員として行動していると私は思っております。

○記者

徳川家康がお好きだとお聞きしていますが、どういう部分が好きかというところと、これから、副議長を務めるに当たって、歴史上の偉人から学ぶようなことは、何かおありですか。

○蛭沢副議長

親から離れて今川の人質となり、信長、秀吉の下での苦しい下積みを経て、耐えて、耐えて、耐え忍んで、天下を獲った。

だから、私は、大器晩成でいいのではないかと思います。徳川家康、26巻、全て読みましたし、勿論、その時代に家康に関わっている秀吉、信長、前田利家についても、歴史物は読みました。

○記者

「鳴くまで待とうホトトギス」ではないですけども、我慢強くということでしょうか。

○蛭沢副議長

それは、私が県議会議員に最初立候補するまで、我慢強く待っていた中で、周囲からの要請を受けて、立候補したということもありました。

○記者

お父様も町議会議員をやられていたと記憶していますが。

○蛭沢副議長

父親も町議会議員をやりました。

○記者

何故、御自身が政治の世界に入られたのでしょうか。

○蛭沢副議長

私の弟を20代で、町議会議員として、父親の跡を継がせてやろうと思ったのですが、早いという判断で、1期待って31歳で弟が継ぎました。本来、弟が議長をやれば、ステップアップして県議会議員に

出馬し、弟がやっていたと思います。

弟は、現在は、東北町議会で10期目、今度で11期、それぐらいやっています。

しかし、弟は、いろいろな事情で県議選に出なかった。東北町が政治的に恵まれなかった面も含めて、周りから背中を押されたというのが実情です。

以上です。